



東京都環境審議会宛

一般社団法人Media is Hope





Media is Hope

気候変動を解決できる社会構築を実現するために、
気候変動の正しい知識（問題と解決策）を
日本の共通認識にし行動変容を促す必要があると考え、
気候変動報道の活性化のためのさまざまなサポートを行う団体。



Our Team



西田 吉蔵 (にしだ よしぞう)

発起人・共同代表理事

1984年生まれ。京都府出身。大手企業や団体のブランディングやコミュニケーションプランニング、プロジェクト推進業務を経験。日本版気候若者会議の立ち上げなど気候変動の本質的な解決に向けた社会構築、仕組みづくりを目指す。



名取 由佳 (なとり ゆか)

発起人・共同代表理事

1990年生まれ。東京都出身。2019年気候変動に危機感を抱き大手企業を退職。その後ソーシャルな分野で仕事をしながら1400人以上が登録する環境活動コミュニティ”Green TEA”の立ち上げや気候変動の抜本的な解決に向け奮闘。



ベーカー 恵利沙

広報・海外担当ディレクター



高橋 ほたる

ビジュアルデザイナー



會澤 裕貴

監事・メンター



渡辺 みさき

キャンペーナー 兼 パティシエ



小原 壮太郎

理事・アドバイザー

VISION

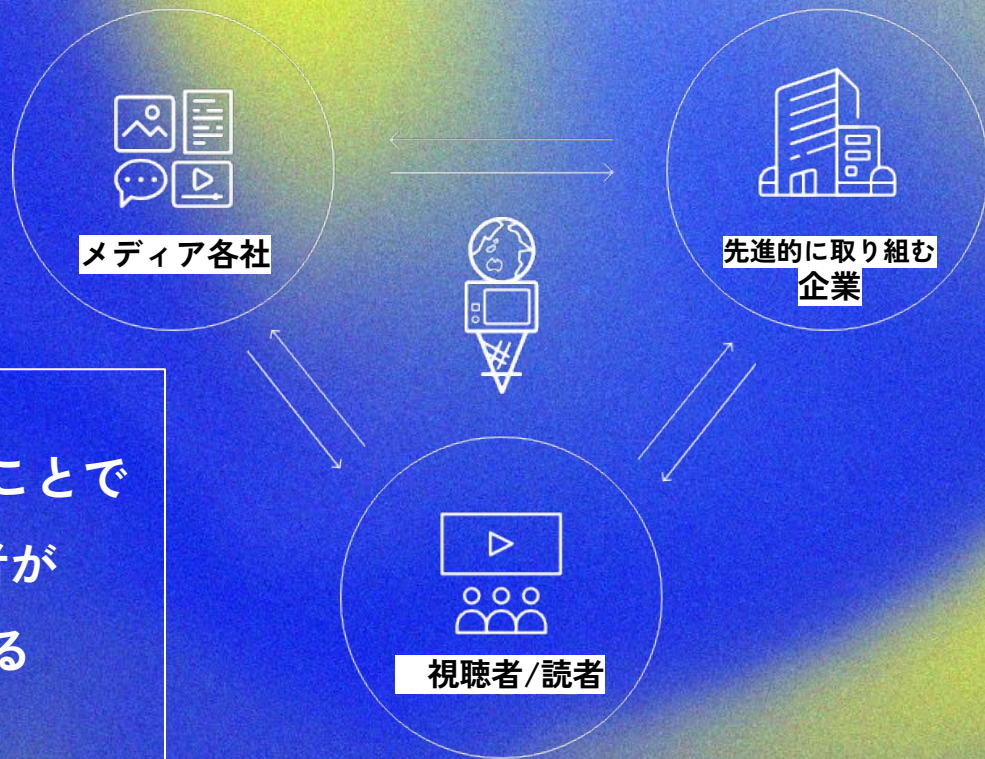
目指す社会像

メディアをつくる側もえらぶ側もお互いに責任を持ち、
公平で公正かつ自由なメディアと
持続可能な社会の構築

PURPOSE

私たちの存在意義と役割

気候変動をメインピックに扱うことで
メディア⇄企業⇄視聴者や読者が
共創関係になる仕組みをつくる



より良い社会を築きたいと思っているみんなが
繋がるための架け橋

もくじ

1. 課題整理の必要性
2. 効果的な情報の届け方
3. メディアの活用
4. 仕組み化の提案

1.課題整理の必要性

- ▶まず東京都として課題認識していく必要がある

※ここをなんとなくやるとPDCAが評価できず結果が出ない!!

ビジョン ありたい姿

ロードマップ

ミッション
使命

②現状把握 (As-Is)

問題構造 根本原因

④ ミッション達成のために 自分たちができる役割

バリュー
提供価値

→ビジョン起点であれば
自分たちならではの価値が

パーパス（存在意義）に昇華

1.課題整理の必要性

As-Is<現状>

- 知識不足や認識不足
 - 都民の行動変容を促せていない
 - 大企業・中小企業の理解/実践
- 都民と行政の距離感がある
 - フレンドリーさが足りない
 - 一緒にやろうという状態・空気感になっていない
- 実際の問題
 - 正しい情報が届いていない
 - 実践者の不足（個人・事業者）
 - 制度上の課題

ギャップは何か
(課題)



To-Be<何を目指するか>

東京都として
誰にどういう状態に
なってもらいたいのか

都民・事業者・連携地域など
それぞれとの理想の関係性は？
期待するアクションは？

ギャップをどう
埋めるか(施策)



各ステークホルダーごとに
どんな行動変容ジャーニーが必要か
(相手にメリットをどう提供するか)

▶継続的なコミュニケーションで共感・
納得して行動を変える人が増えていく

1.課題整理の必要性

課題を特定後に、施策の具体化ができる
時間軸と優先度を加えたロードマップを作成
▶進み具合をチェック(PDCA)できるようになる

また、
東京都ならではの提供価値≡パーパス（存在意義）を
言語化しておくことも継続的なコミュニケーションに有効
▶ビジョン起点でパーパスを設定し、一貫性を持たせる

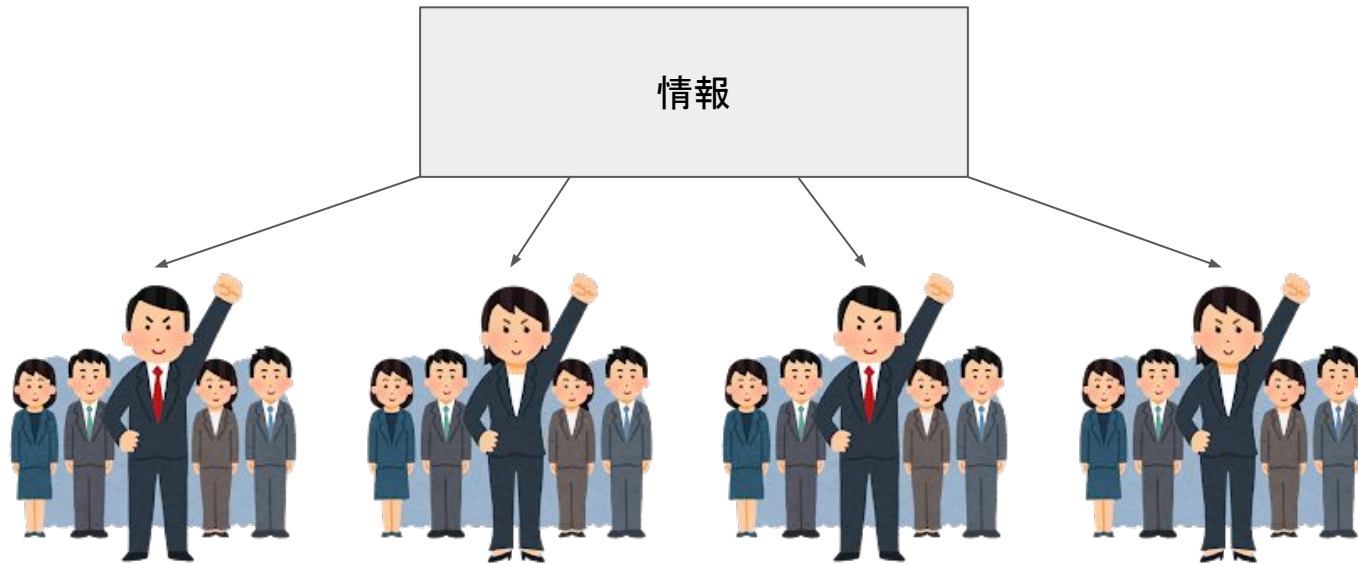
2.効果的な情報の届け方

そもそも、情報過多の時代に
情報を無作為に一般市民へ届けることはむずかしい



2.効果的な情報の届け方

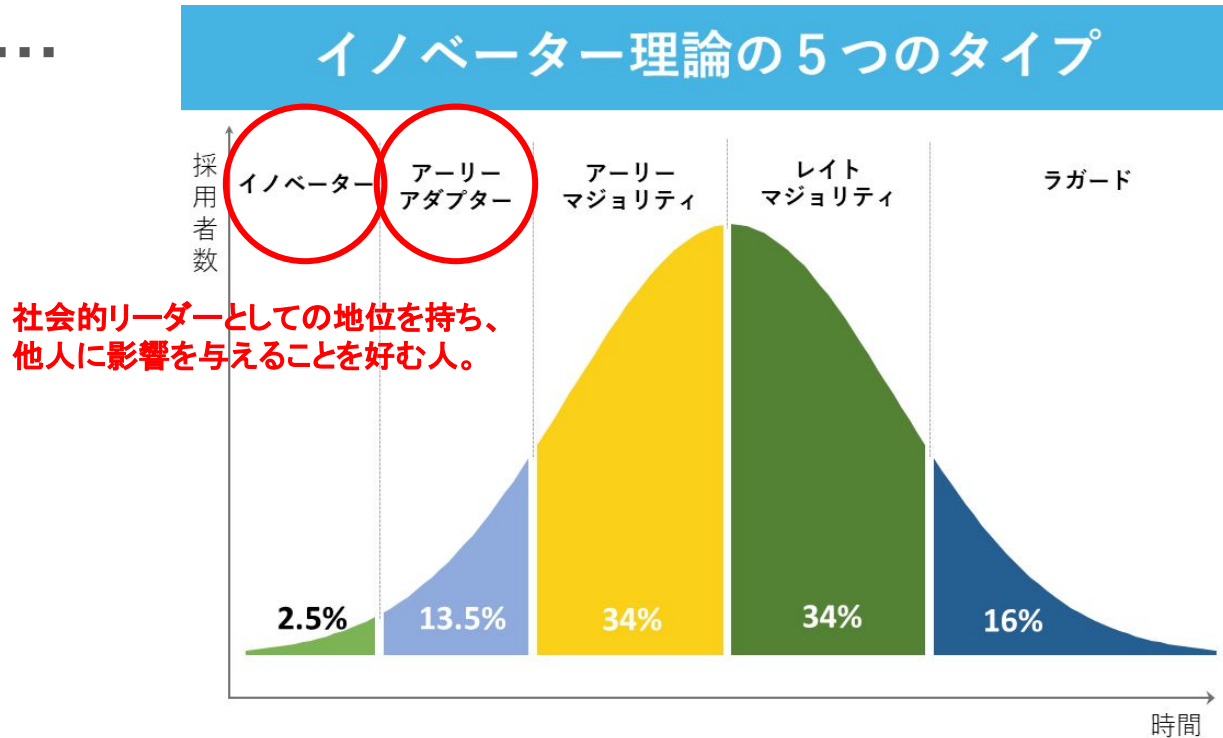
そこで重要なのが「コミュニケーションの二段階の流れモデル」



オピニオンリーダーに届ける

2.効果的な情報の届け方

例えば...



3.メディアの活用

①リリースを出す際に全体バージョンと 「メディア向けバージョン」をつくる

全体バージョン



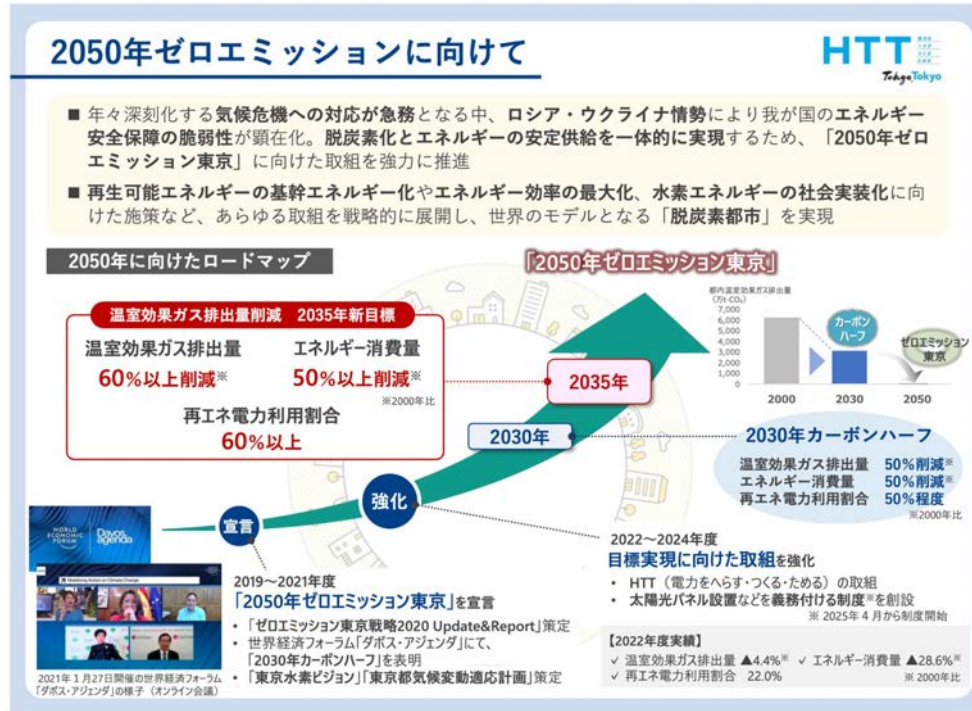
メディア向けバージョン



メディアが取り上げたくなる「解釈」を記載する

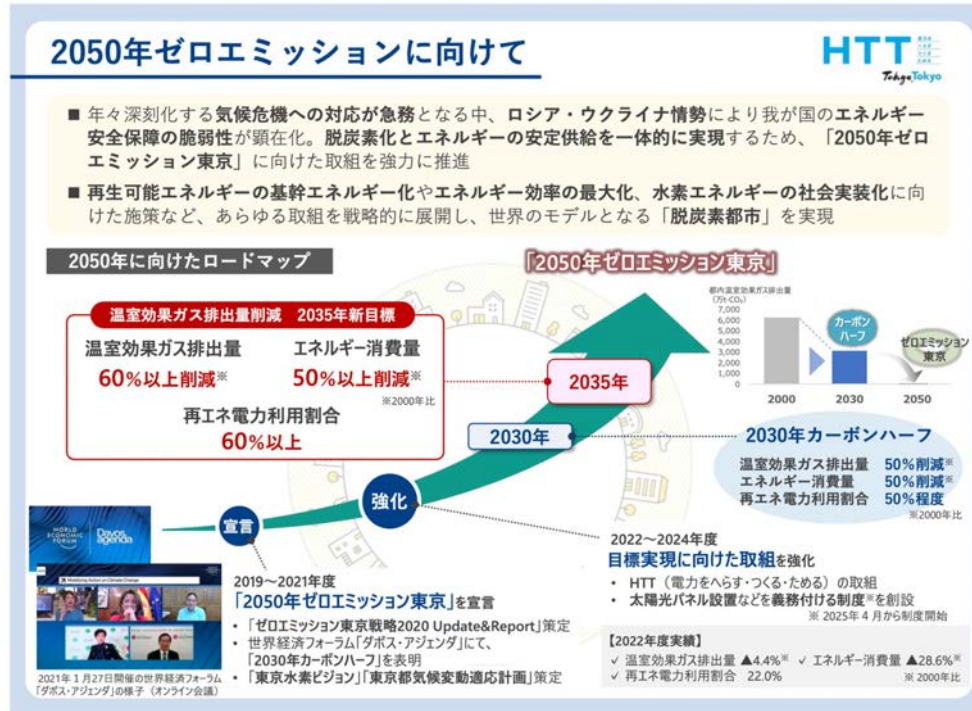
3.メディアの活用

メディアが取り上げたくなる「解釈」を記載する とは？



3.メディアの活用

メディアが取り上げたくなる「解釈」を記載する とは？



基準年を2000年に
しているため
国の目標より高い
削減目標

3.メディアの活用

②情報にストーリー性・具体性を持たせる

HTT

電力を

へらす

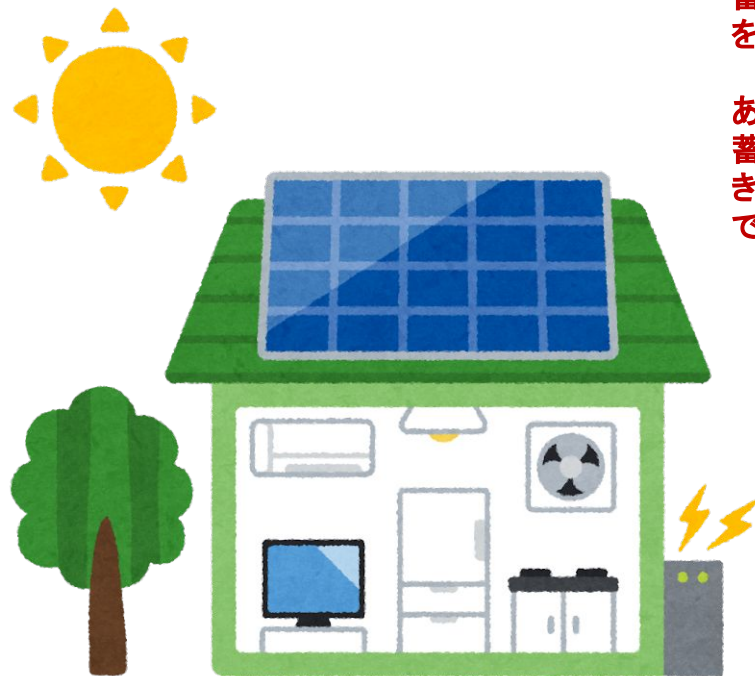
つくる

ためる

TokyoTokyo

3.メディアの活用

イノベーター・アーリーアダプターに問いかける



あなたが家に太陽光パネルをつけ
蓄電池を設置したら災害時に地域の人々
を助けることができる・・・

あなたが家に太陽光パネルをつけ
蓄電池を設置したら周りに住む人たちも
きっと安心してつけることが
できる・・・



4.提案

▶東京都として語るべきナラティブの整理

脱炭素地域づくり<東京都のナラティブ整理>

個人向け・企業(経済界)向け
政府など各ステークホルダーごとに
それぞれ整理して優先順位をつける

論点

1、共感する（ビジョンや想い、共通目標、ストーリー）

多様な主体、
一人一人のストーリー

東京都

地域

企業

都民

俯瞰した共通目標

住民・個人の
ウェルビーイング

地域や企業価値
の最大化

安全保証
(電力/経済)

2、実利で納得する（再エネは安い&マルチベネフィット）

再エネの価格
低下／補助金も

国際的な流れ
(機会と損失)

雇用/
地域づくり

成長産業
/投資

各レイヤーごとの
メリットを言語化
都民(消費者)
→中小/大企業
→地域/国

3、ネガティブを払拭（情報整理）

いい再エネ、悪い再エネを整理

否定論、懐疑論に対する
カウンターナラティブ

4、実践を広げる方法の仕組み化 (再現性や真似したくなる)

成功事例を作り
課題解決の方法を
発信・蓄積

いかに再現性を持って
次の行動を作っていくか
(地域/市民連携の場の提供)

情報の集積と発信・教育的な要素

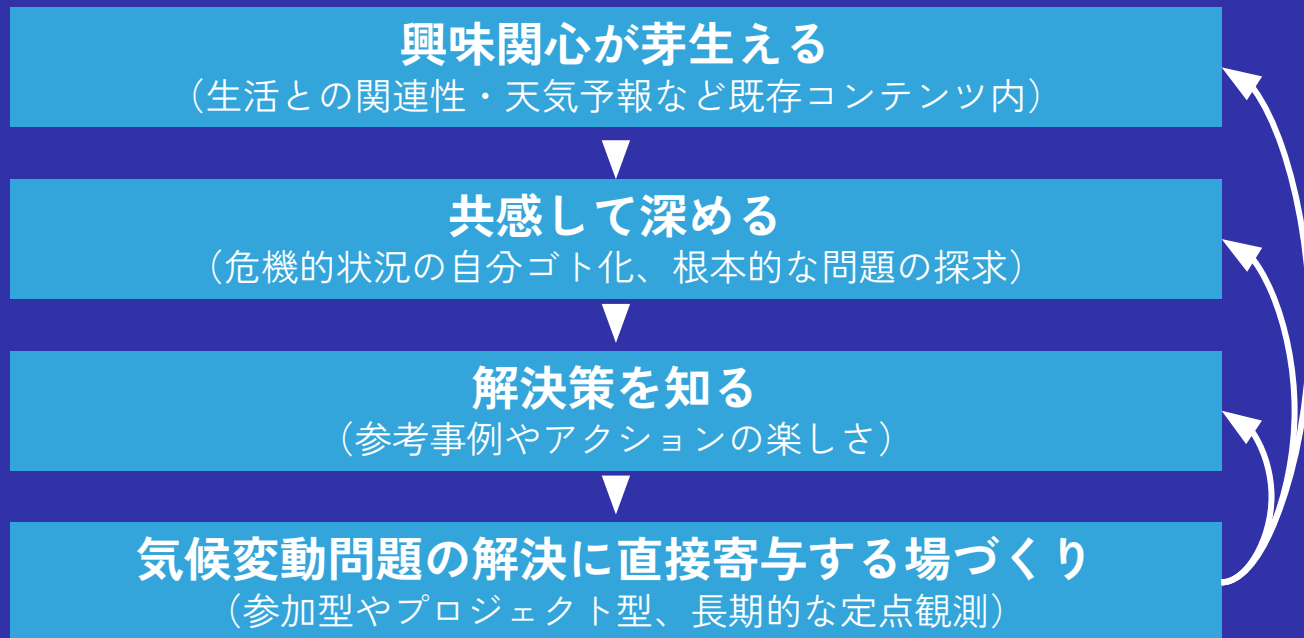
・情報をいかに見つけやすくするかが鍵
・SEOやキーワード、キャッチが重要

<行動変容に繋げるステップ>で考える



Media
is
Hope

気候変動問題の本質を知り、“行動変容”するまでの流れ



新たな実践が生まれることで
次の興味関心↓深める・探求
↓解決アクションのループに繋がる

ご清聴ありがとうございました。

参考：Media is Hopeイベント「みんなでつくろう！再エネの日」開催時の資料



「みんなで作ろう！ 再エネの日！2023」



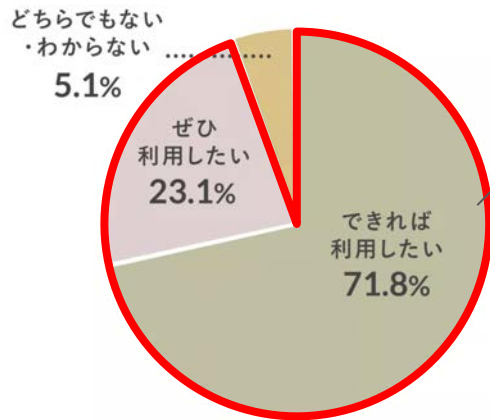
👍 Media is Hopeならではの取り組み

実現を後押ししたテレビ朝日系列特番
「再エネ革命! ニッポンの挑戦」を
パブリックビューイング

【再生可能エネルギー調査】94.9%が再エネを利用したいが、事業者を知らない・料金・手続きが利用のネック [\(ELEMENIST調べ\)](#)

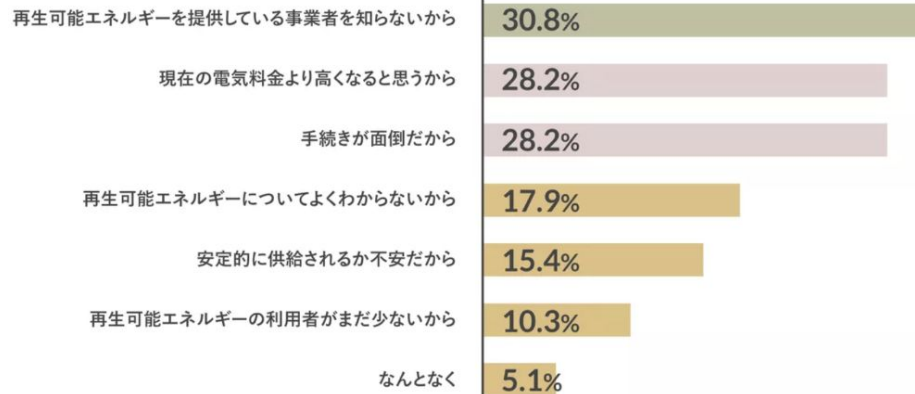
再エネを利用したい人は94.9%

次に、現在再生可能エネルギーを利用していない人に、再生可能エネルギー利用の意向を聞いてみました。



利用のネックは、「事業者を知らないこと」「料金」「手続き」

また再生可能エネルギーを利用していない理由については、次のような回答が集まりました。



▶ **再エネを利用したいのに再エネを利用していない94.9%、大きな機会損失が発生**
ボトルネックのほとんどがコミュニケーション不足が原因ではないか！？

<再生可能エネルギーを普及するために>



Media
is
Hope

知識不足や認識不足によるネガティブイメージをポジティブイメージに変え、国民・市民の理解を得ながら、行動変容を促すコミュニケーションが必要

再エネを利用していない理由

知識不足：

①「再生可能エネルギーを提供している事業者を知らないから」 (30.8%)

認識不足：

②「現在の電気料金より高くなると思うから」 (28.2%)

対策に消極的：

③「手続きが面倒だから」 (28.2%)

その他のネガティブ意見：

「再生可能エネルギーについてよくわからないから」 (17.9%)

「安定的に供給されるか不安だから」 (15.4%)

「再生可能エネルギーの利用者がまだ少ないから」 (10.3%)

今回の
ターゲット

<行動変容まで繋げる導線>

ボトルネックに対応し、行動変容まで完結できる機会に。



知識不足に対応↓

- ① 知識不足に対応
(イベントや番組を通して) 再エネに関して知識を得る

気候変動を語れる著名人
やインフルエンサー

認識不足に対応↓

- ② 再エネ導入することの金銭的なベネフィットや
補助金などの公的な情報を得る

環境省や
東京都環境局

その他のネガティブ意見に対応↓

- ③ 再エネで地域を盛り上げ元気にする事業者を知り、
専門家と直接コミュニケーションが取れる

地域市民電力やソーラー
シェアリングなどの事業
者や桐蔭横浜宮坂さん等
の専門家

対策に消極的に対応↓

- ④ その場で納得して再エネに切り替えることができる
(その場で切り替えできなくても、簡単に切り替え可能なことを知る)

再エネ切り替えブース

【9月24日は再エネの日】再エネ普及のためのお祭りのイベント

イベント参加する組織、個人、各メディアからリーチする新たな視聴者を巻き込む



※Media is Hopeで繋がりのある組織や個人、メディア（テレビ/雑誌/新聞/オンライン）と連携



番組視聴者

イベント参加者

番組視聴者や当日のイベント参加者がSNS発信することで盛り上がりを可視化



さらなる視聴者を呼び込む

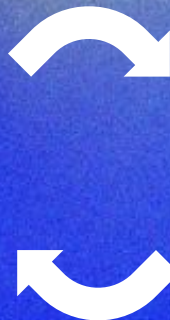
イベント化して参加者や来場者と盛り上げ話題を呼ぶことで、家にいる視聴者も呼び込み、結果として最大限多くの関心を持ってもらう → イベントが盛り上がり、視聴者が増えることで気候変動番組が単発ではなく継続的に！！

VALUE

私たちが提供する価値

メディア支援

気候変動報道やコンテンツが
増えるための支援



メディア連携

テレビ/新聞/雑誌/オンライン
メディア/各メディア間の連携

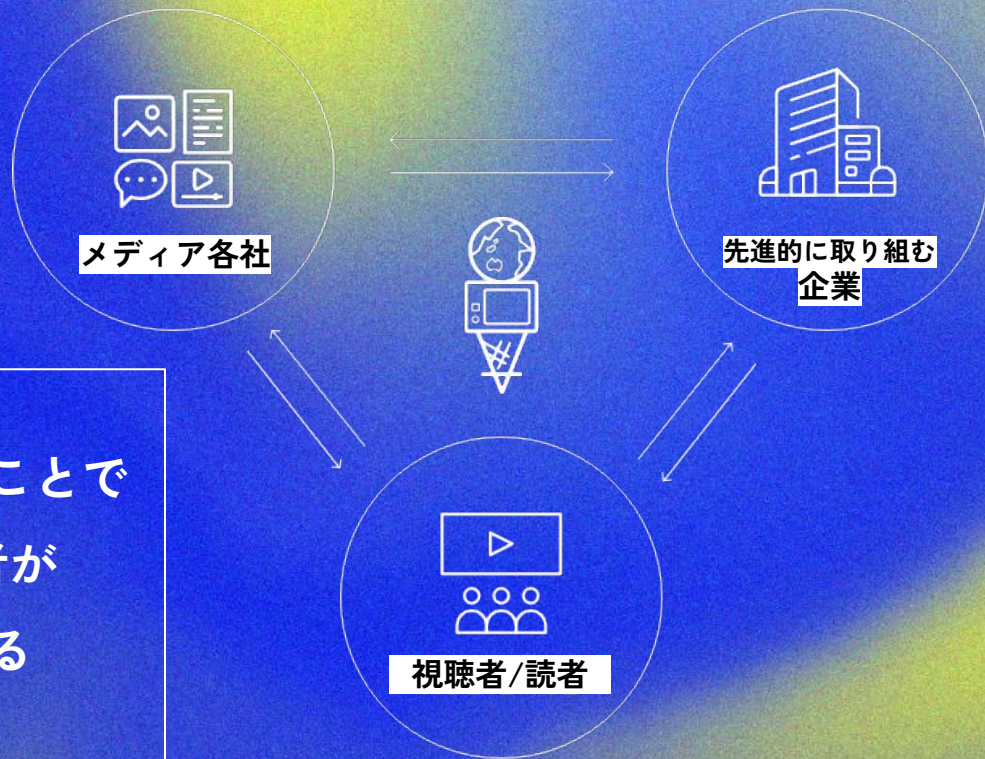
あらゆるステークホルダーが共創関係を築く架け橋

気候変動の本質的な解決を目指して、
メディアや市民、企業や専門家/実践者、**行政/地域**などを繋ぐ

PURPOSE

私たちの存在意義と役割

気候変動をメインピックに扱うことで
メディア⇄企業⇄視聴者や読者が
共創関係になる仕組みをつくる

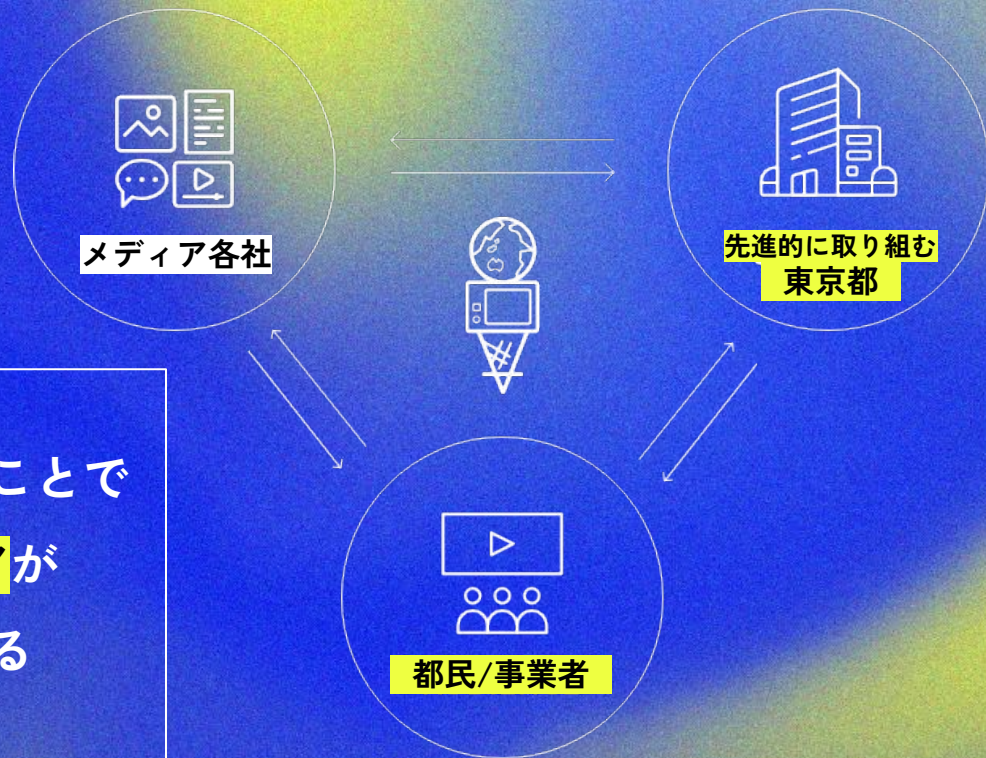


より良い社会を築きたいと思っているみんなが
繋がるための架け橋

PURPOSE

私たちの存在意義と役割

気候変動をメインピックに扱うことで
東京都⇄都民/事業者⇄メディアが
共創関係になる仕組みをつくる



より良い社会を築きたいと思っているみんなが
繋がるための架け橋

メディアとつくる、私たちの未来

団体説明 パンフレット



**Media
is
Hope**

mediaishope.org



Media is Hope

気候変動を解決できる社会構築を実現するために、
気候変動の正しい知識（問題と解決策）を
日本の共通認識にし行動変容を促す必要があると考え、
気候変動報道の活性化のためのさまざまなサポートを行う団体。



Our Team



西田 吉蔵 (にしだ よしぞう)

発起人・共同代表理事

1984年生まれ。京都府出身。大手企業や団体のブランディングやコミュニケーションプランニング、プロジェクト推進業務を経験。日本版気候若者会議の立ち上げなど気候変動の本質的な解決に向けた社会構築、仕組みづくりを目指す。



名取 由佳 (なとり ゆか)

発起人・共同代表理事

1990年生まれ。東京都出身。2019年気候変動に危機感を抱き大手企業を退職。その後ソーシャルな分野で仕事をしながら1400人以上が登録する環境活動コミュニティ”Green TEA”の立ち上げや気候変動の抜本的な解決に向け奮闘。



ベーカー 恵利沙

広報・海外担当ディレクター



高橋 ほたる

ビジュアルデザイナー



會澤 裕貴

監事・メンター



渡辺 みさき

キャンペーナー 兼 パティシエ



小原 壮太郎

理事・アドバイザー

SUPPORTERS

推薦・応援コメント

三宅 香さん



日本気候リーダーズ・パートナーシップ(JCLP)共同代表
／三井住友信託銀行 ESGソリューション企画推進部 主管

2015年のパリ協定から7年。一部の専門家が警鐘を鳴らし、一部の先端企業が行動し、一部の活動家が抗議するフェーズは終わりました。気候危機を回避し地球を救うためには、規模の大小や業種を問わず全ての企業と、老若男女を問わず全ての生活者が動かなければなりません。そして、その為にはメディアの力は非常に重要であり、このMedia is Hopeの活動趣旨に共感すると共に今後の活躍に期待をしたいと思います。

高野 明彦さん



日本気候リーダーズ・パートナーシップ(JCLP)／株式会社メンバーズ 代表取締役 社長 執行役員

気候変動問題に対処するには抜本的なシステムチェンジに向け、正しい理解に基づいた社会的な議論・対話および合意が必要になってくると思います。それに対してMIHさんは誰のせいにするでもなく、協調的に、ロジカルに、建設的に行動されておりとても素敵だと思っています。世の中に大きな議論を巻き起こしていきましょう！

パタゴニア 環境助成担当者



急激に変化する気候に私たちが対処するためには、地球規模の大きな変化が必要であることは周知の事実です。弊社も2018年、気候の危機を背景に、ビジネス課題ととらえ、ミッションステートメントを「私たちは地球を救うためにビジネスを営む」と変更しました。けれども、気候の問題は一社でできるものではなく、現在、多くの国内企業とともに、この危機的状況を踏まえて、各業界、各分野で取り組み、政府に提言するなど行動してきています。そのなかで、一般市民がこの気候の問題の危機的状況を俯瞰して捉え、自身の体感とともに感じ取ったうえで、ポジティブな社会変化をつくっていくためには、忙しい日頃日常において情報が十分ではありません。そこにメディアの連帯と存在が大きな役割を果たし、国内において大きな気候変動への取り組みへの導入、つながりをつくっていただくことが、今ほんとうに期待されています。このとき、Media is Hopeが陰になり日向になり行う、情熱と冷静さのある活動に敬意をもって協力、協働しております。気候変動を解決したいと考える人たちの大切なパートナーとして、国内で活躍期待する組織です。



江守 正多
さん

気候科学者
東京大学未来ビジョン研究センター教授
国立環境研究所上級主席研究員

Media is Hopeは、気候ムーブメントの新しい形だと思います。
日本で気候変動への人々の関心が低いのはメディアが報道しないせいではないか—ここまでは誰でも言います。
Media is Hopeは、なぜメディアの報道が少ないのかをかなりよく把握した上で、この問題に取り組んでいます。
しかも、メディアに要求するだけでなく、視聴者も含めた関係を構築していくそうです。新しいなあ。
彼らと一緒に、新しい関係性構築に参加していきたいです。



香取 啓介さん 朝日新聞科学みらい部 次長

気候危機の現実を前に、世界は変わりつつあります。
科学はより早く、大胆な変化が必要だと警告しています。ただ、残念ながらメディア自身が変化に追いついていないとも言えません。複雑で、答えの見つけにくい、目をそらしたくなる現実をどう読者や視聴者に届けるか。悩み、時には無力だと感じることもあります。そんな時に「あなたたちは希望だ」と叱咤激励する声がある。「Media is Hope」のような取り組みが若い世代から生まれることこそが「希望だ」と思います。



小原 壮太郎
さん

一般社団法人the Organic代表理事
全国有機農業推進協議会 理事・事務局長
環境省 森里川海アンバサダー

気候変動問題を解決していくためには、みなさんがもっと寛容になって互いを認め尊重しあい、同じ未来を見つめながら一丸となって、経済も社会も環境も変えていくことが最も大切だと確信しています。
“伝える”ことに長年取り組んできたメディアの方々が、市民と一丸となってみんなの意識を変革して、未来をすばらしい方向に導いていく、なんて最高の成功物語じゃないですか！
みんなでそんな最高の未来を創っていきましょう！



正木 明さん 気象予報士・防災士、天気キャスター

日常にある天気予報の時間に気候変動の情報を盛り込んで、視聴者の皆さんがその当事者であることを知ってもらう。今の私に突き付けられている大きな課題です。
そして、その取り組みを斬新なアイデアを駆使して形にし、実践していこうというMedia is Hope。メディアはまだまだ可能性を秘めていると思います。大きな期待を胸に、私も是非参加させてください。皆さんの活動自体が『Hope』そのものです。

メディア掲載・連携実績

朝日新聞
DIGITAL

日刊工業新聞

東京新聞
TOKYO Web

HUFFPOST

SlowNews

読賣新聞



毎日新聞



ELEMINIST



FR&U

VOGUE

NHK



tv asahi



フジテレビ

TBS

HEARST
fujingaho

テレビ愛知



メ〜テレ



tssテレビ新広島

NEWS PICKS

LOVE FM

alterna

BS朝日



KODANSHA

TBSラジオ
FM90.5 + AM954

KYODO

ラジオ関西
AM558 FM91.1

RICE MEDIA

8カン
テレ

いますぐ動こう、気温上昇を止めるために。

1.5℃の約束



VISION

目指す社会像

メディアをつくる側もえらぶ側もお互いに責任を持ち、
公平で公正かつ自由なメディアと
持続可能な社会の構築

MISSION

私たちの使命



気候変動問題を解決するために、**原因と対策を国民の共通認識にする**



視聴者ひとりひとりにメディアを選ぶ責任があることを伝えると同時に、**メディアが本来あるべき姿を取り戻す**ために視聴者の声を届けていく

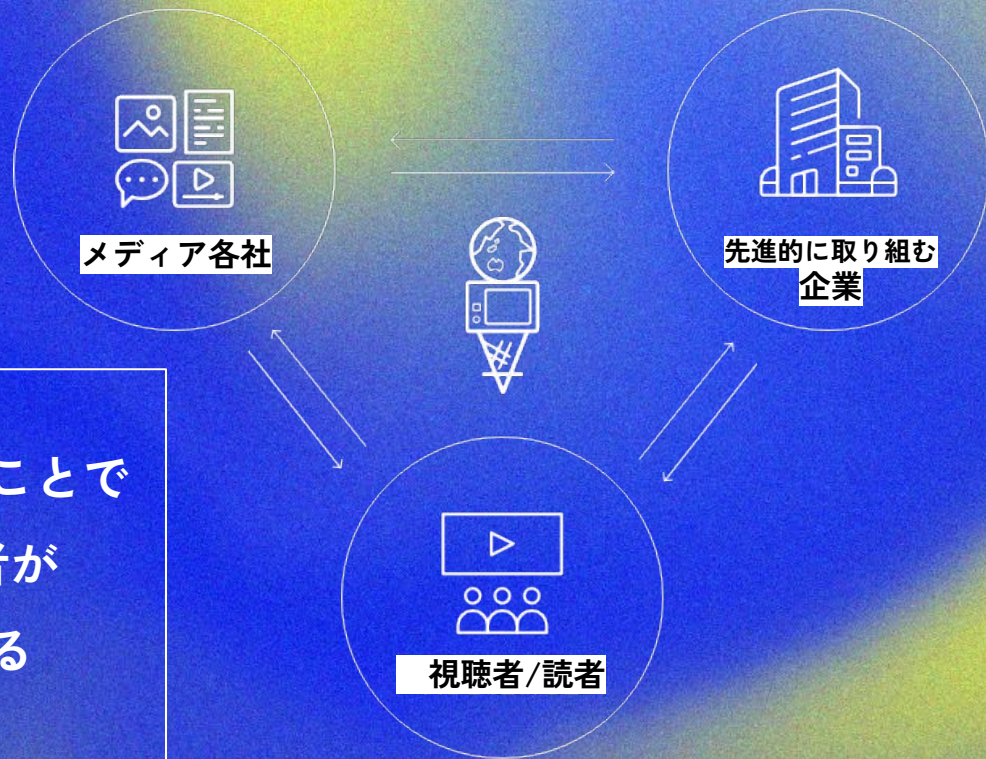


メディアとスポンサーと視聴者の新しい共創パートナーシップで、自由な発信を可能にする

PURPOSE

私たちの存在意義と役割

気候変動をメインピックに扱うことで
メディア⇄企業⇄視聴者や読者が
共創関係になる仕組みをつくる



より良い社会を築きたいと思っているみんなが
繋がるための架け橋

気候変動を報道や番組で扱うことが難しい理由・課題

気候変動を扱いたいと思ってない（担当ではない）

まだ知らない

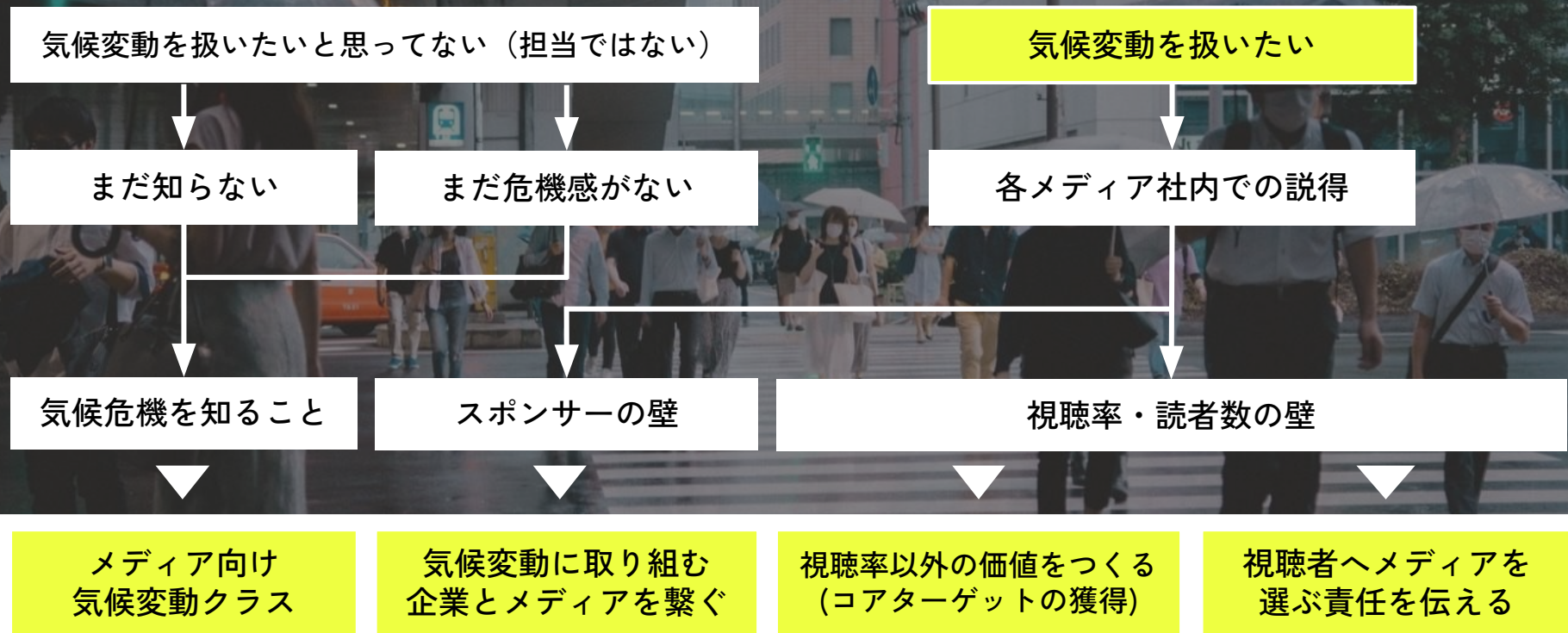
まだ危機感がない

気候危機を知ること

メディア向け
気候変動クラス

気候変動を扱いたい

気候変動を報道や番組で扱うことが難しい理由・課題



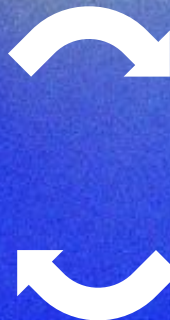
“Media is Hope” があらゆる課題にアプローチ・支援

VALUE

私たちが提供する価値

メディア支援

気候変動報道やコンテンツが
増えるための支援



メディア連携

テレビ/新聞/雑誌/オンライン
メディア/各メディア間の連携

あらゆるステークホルダーが共創関係を築く架け橋

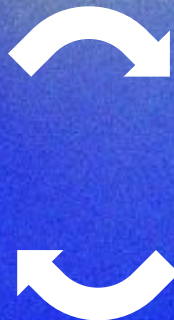
気候変動の本質的な解決を目指して、
メディアや市民、企業や専門家/実践者、行政/地域などを繋ぐ

VALUE

私たちが提供する価値

メディア支援

気候変動報道やコンテンツが
増えるための支援



メディア連携

テレビ/新聞/雑誌/オンライン
メディア/各メディア間の連携

あらゆるステークホルダーが共創関係を築く架け橋

気候変動の本質的な解決を目指して、
メディアや市民、企業や専門家/実践者、行政/地域などを繋ぐ

Seminars 勉強会

毎月その時期のホットピックを専門家や精通するメディア関係者を招いて勉強会を開催



2024年10月29日(火) 17:00-18:30 ハイブリッド開催 @AP虎ノ門

“環境省交渉官に聞く”

COP29直前メディア向け勉強会

～気候変動/生物多様性/プラスチック3つの国際交渉の現場から～

地球環境局 気候変動国際交渉室長 小沼 信之氏	大臣官房 広報室長 浜島 直子氏	環境再生・資源循環局 容器包装・プラスチック 資源循環室長 井上 雄祐氏	水・大気環境局 海洋プラスチック汚染対策室長 中山 直樹氏
-------------------------------	---------------------	---	-------------------------------------



10/29(火)環境省登壇【COP29直前メディア向け勉強会】“環境省交渉官に聞く” COP29直前メディア向け勉強会 ～気候変動/生物多様性/プラスチック 3つの国際交渉の現場から～



世界が注目する気候テック

日本のメディアはどう報じるべきかメディア関係者&専門家と探ります

2024.8.7 Wed. 14:00～15:30 @City Lab Tokyo

香取 啓介氏
朝日新聞 編集局
科学みらい部次長

同 ゆづは氏
NewsPicks
編集部 記者

市川 裕康
株式会社ソーシャルカンパニー
メディアコンサルタント

馬田 隆明氏
東京大学 FoundX
ディレクター

三ツ村 剛志氏
Business Insider Japan
副編集長



【メディア向け勉強会】8/7(水)に気候テック (Climate Tech)をテーマにした勉強会を開催！！
世界が注目する気候テック (Climate Tech) ～日本のメディアはどう報じるべきかメディア関係者&専門家と探ります～

COP関連の発信、現地で取材素材を提供

COP28の概要や注目 テーマに事前記事を執筆

[コスモポリタン] COP28とは？
世界の問題を議論する
COPの注目のテーマや概要を紹介



現地取材素材をMedia is Hopeがメディアに提供

[ハフポスト] 「島が沈むかも
…」 気候変動によって、世界で
何が起きている？COP28に集
まった人々が語ったこと【動
画】

気候変動の影響はすでに世界中で
起きており、気温上昇を抑える
ために残された時間は少ない



Media is Hopeのオリジナ ルコンテンツを発信

[COP28特別企画] 世界のジャー
ナリストへの逆取材企画

報道の枠では語られづらいジャー
ナリスト自身の声を可視化





【気候危機に関する気象予報士・気象キャスター共同声明】

「日常的な気象と気候変動を関連づけた発信」で命と未来を繋ぐ。
～今こそ気象予報士・気象キャスターが気候危機解決への架け橋に～

賛同人44名

[24/6/5 国連大学にて] 気候変動が深刻化する現在。生活者にとって身近な天気予報や報道は、日々体感している異常気象の原因について自覚する大きなきっかけ・チャンスになります。そこで、2024年6月5日“世界環境デー”に合わせ、全国で活躍する気象予報士・気象キャスターが【気候危機に関する気象予報士・気象キャスター共同声明】を発表しました！！広く気象予報士・気象キャスターの想いを知ってもらおうと同時に、気候変動解決のために「気象と気候変動を関連付けた発信」を加速していく先駆けとなる、記念すべき会見でした。



気候危機に関する気象キャスター共同声明記者会見のサポート

メディア掲載



[日テレNEWS]「気象予報士ら」「気候変動についての発信を目指す」44人が共同声明

<https://youtu.be/K2GGyYPeRs>

[ANNNewsCH] 気象キャスターらが気候変動問題で危機感訴え「関心を高めていくべき」

<https://youtu.be/9Sdb1ZVj6PQ>

[TBS NEWS DIG]「気象予報士も気候変動について言及を平均気温1℃上昇で線状降水帯発生.3倍の試算も

https://youtu.be/JMFgPF_VST4

[日テレNEWS]「気候変動についての発信を目指す」44人が共同声明

<https://news.ntv.co.jp/category/society/e9e605c2dd3b49dc87949ea128810e93>

[テレ朝ニュース] 気象キャスターらが気候変動問題で危機感訴え「関心を高めていくべき」

https://news.tv-asahi.co.jp/news_society/articles/000353009.html

[TBS NEWS DIG]「気象予報士も気候変動について言及を平均気温1℃上昇で線状降水帯発生.3倍の試算も 気象予報士・気象キャスターらが共同声明

<https://newsdig.tbs.co.jp/articles/-/1213326>

[ハフポスト] 猛暑や災害の激甚化..なぜ天気予報で気候変動について伝えないの?気象キャスターたちの葛藤と決意

https://www.huffingtonpost.jp/entry/story_ip_665adb57e4b0b6cf3f484beb

[東京新聞] 井田寛子さん、斉田季実治さんも、「いま声を上げないと」語った決意 気象予報士44人が気候変動で

<https://www.tokyo-np.co.jp/article/331714>

[朝日新聞]天気予報で気候変動問題も伝えよう 井田寛子さんら気象予報士が声明

<https://www.asahi.com/articles/ASS6532SL65ULBH010M.html>

[オルタナ] 日本の気象ニュースはなぜ気候変動を伝えないのか

<https://www.alterna.co.jp/126036/>

[毎日新聞] 気候変動と言ってはいいけない＝八田浩輔(NY支局) | 紙面版

<https://mainichi.jp/articles/20240617/k00/00m/030/013000c>

[朝日新聞SDGs ACTION!] 気象予報士・気象キャスター44人が共同声明 「気候危機解決の架け橋に」

<https://www.asahi.com/sdgs/article/15293937>

[日刊工業新聞]「温暖化で異常気象」裏付け イベント・アトリビュション

<https://www.nikkan.co.jp/spaces/view/0076650>

[朝日新聞]おは朝35年、お天気の正木明さんが教室へ手弁当でも伝えたいこと

<https://digital.asahi.com/articles/ASS7T11L2S7TPOMB01TM.html>

[北海道新聞]「気候危機、ローカルの視点で」国際報道キャンペーン共同設立者に聞く

<https://www.hokkaido-np.co.jp/article/1044460/>

[NHK文研ブログ]気候危機にメディアはどう向き合うべきか「異常気象の最前線に立つ気象予報士からの警鐘」

<https://www.nhk.or.jp/bunken-blog/100/671273.html>

声明後の成果



↑「おはよう朝日です」で
日々のお天気コーナーで気候変動について触れることに！
J-WAVEラジオでは1日2回
お天気コーナーで気候変動について言及することに！

その他、気象予報士同士の連携が強まっています。

(参考: [詳細記事](#))

Media is Hope AWARDという形で報道やジャーナリストを応援！



Media is Hope AWARDとは、気候変動やSDGsといった社会課題解決へ貢献するメディア / ジャーナリストの功績を讃える賞で、一般社団法人Media is Hopeからお贈りする賞です。



👍 Media is Hopeならではの取り組み

メディアの中で気候変動やSDGsといった社会課題を扱い続けることは簡単なことではありません。私たちMedia is Hopeは視聴者 / 読者という立場など、メディアではない人たちが課題に尽力するメディアやジャーナリストを応援していく必要があると考え活動しており、この賞もその一環です。

メディア支援



勉強会

メディア向け気候変動
クラスを開催



ご意見番

賞賛と感謝をベースに意
見を届ける



報道調査

報道数の可視化と発信



脱炭素

メディア自身の脱炭素化
サポート



協働企画

一緒に気候変動
コンテンツをつくる



企業連携

気候変動に取り組む
企業との連携支援



ステークホルダー

メディアと専門家や若者
などを繋ぎ、共創の場を
つくる



海外連携

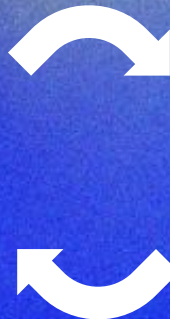
海外メディアとの連携

VALUE

私たちが提供する価値

メディア支援

気候変動報道やコンテンツが
増えるための支援



メディア連携

テレビ/新聞/雑誌/オンライン
メディア/各メディア間の連携

あらゆるステークホルダーが共創関係を築く架け橋

気候変動の本質的な解決を目指して、
メディアや市民、企業や専門家/実践者、行政/地域などを繋ぐ

メディア連携事例 地球温暖化5社座談会@FRaU

新聞各社の気候変動記事のまとめサイトの役割を果たす。
お互いに協力し合うことでコンテンツ自体で相乗効果を生む事例となった



2023.05.19

Media is Hope地球温暖化座談会 #2

朝日、読売、毎日…新聞5社が語った「多くの人に読まれる記事」の傾向

FRaU編集部



2023.05.19

Media is Hope地球温暖化座談会 #3

欧州では熱中症の死者が増大…朝日、読売、毎日…新聞5社が語る「気候変動で知りたいこと」

FRaU編集部



2023.05.19

Media is Hope地球温暖化座談会 #1

暑すぎて外遊びできない！朝日、読売、毎日…新聞5社が目目の当たりにした「地球温暖化」の現実

FRaU編集部



「1.5℃の約束」 連帯・応援記者会見を主催

活動実績



気候変動解決のためにメディア関係者が媒体や系列、立場を超えて市民とともに集結しました！！

参加組織・メディア

国連広報センター、NHKエンタープライズテレビ朝日、フジテレビ、テレビ愛知、読売新聞、日刊工業新聞、TBSラジオ、ラジオ福島、講談社FRaU、ハフポスト、気象キャスター

[22/10/12 日本記者クラブにて] 国連広報センターが主導する「1.5℃の約束」加盟メディアから、多様な媒体や系列のメディア関係者にご出演いただき、これまでの気候変動報道の課題、そしてこれからの展望についてディスカッションしました。これを市民としての立場で主催し、視聴者としての期待や我々の支援について伝えました。現状イニシアチブをとるメディア関係者と今後の更なる報道強化のために連携・連帯の強化を誓いました。

https://news.tv-asahi.co.jp/news_society/articles/000271648.html

国連広報センターからの
記者会見報告ブログ



climate



Media
is
Hope

media initiative

気候変動を先進的に報道したいメディア関係者
同士との意見交換や交流の場、共創のきっかけ
になる場を構築。気候変動界隈の専門家やメ
ディア研究者、若者や市民社会などステークホ
ルダー紹介や最新情報の提供等を行う。

参考

米国のメディア主体の
気候変動プラットフォーム

Covering Climate Now [🔗](#)

目指しているもの

- 👉 局や媒体を超えた連携とナレッジ蓄積（行動変容に繋がる戦略的キャンペーン、気候変動報道の日常化）
- 👉 CCNowで共有された情報・資源・映像素材を日本のメディアへ提供するためにCCNowに加盟し連携する。日本に活用できそうなものに関して選別やカスタマイズをし、提供していく。

連携するメディア関係者

- SDGメディアコンパクト
（「1.5℃の約束」参加メディア）
- 日本環境ジャーナリストの会
- 主体的に気候変動を取り扱うメディア関係者

International

海外メディア連携



CCNow公式パートナー

Covering Climate Now (CCNow)は、気候変動におけるジャーナリストのための世界的なメディア・コラボレーションの共同体です。気候に関する緊急性の高いニュースを、より多くのメディアで正確に報道することを目指しています。

記者室にアドバイスをし、情報を共有し、ジャーナリストが科学的根拠に基づいた報道を行いながら視聴者の共感を得られる記事を作成できるよう、リソースや実践的な報道方法の知識を提供しています。

Climate 気候変動メディア *Media* シンポジウムを開催 *Symposium*

1.31(水) 15:00-18:00

都内（現地対面のみの開催）



Media
is
Hope

15:10 - 15:40



日本で先進的に取り組む メディア連携の意義 (「1.5℃の約束」キャンペーンの紹介)



根本かおる氏
国連広報センター所長



香取啓介氏
朝日新聞 編集局
科学みらい部次長



石井百恵氏
テレビ新広島 報道部副部長
SDGs関連担当記者



江守正多氏
東京大学未来ビジョン研究
センター教授、気候科学者

15:45 - 16:25



これまでの気候変動報道の 功績と課題について [ディスカッション]



小林 悠氏
小学校教員
「#暑さの原因報道して」
署名発起人



大庭美葉氏
ライター・エディター
Jane Goodall Institute
元VOGUE JAPAN



八田浩輔氏
毎日新聞
ニューヨーク支局専門記者



今田由紀子氏
東京大学 大気海洋研究所
准教授、イベント・
アトリビューション専門家

16:30 - 17:00



メディア自身の脱炭素化の 取り組み紹介 (アンケート取材の結果報告)



熊田安伸氏
スローニュース
プロデューサー
J-Forum/D-JEDI理事



大竹絃子氏
ハースト婦人画報社
サステナビリティ
マネージャー



夫馬賢治氏
株式会社ニューラルCEO
戦略・金融コンサルタント



新町真弓氏
講談社FRaU事業部長
講談社FRaU Web編集長

気候危機の解決策を示す ソリューションジャーナリズム について

マーク・ハーツガード氏
Covering Climate Now
共同設立者

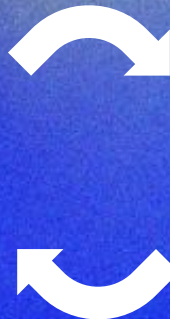


VALUE

私たちが提供する価値

メディア支援

気候変動報道やコンテンツが
増えるための支援



メディア連携

テレビ/新聞/雑誌/オンライン
メディア/各メディア間の連携

あらゆるステークホルダーが共創関係を築く架け橋

気候変動の本質的な解決を目指して、
メディアや市民、企業や専門家/実践者、行政/地域などを繋ぐ

MIHが各ステークホルダーと メディアの連携窓口を担う

メディア以外の気候変動に
おけるステークホルダー

気候メディアイニシアチブ構想 (MIHが事務局を担う)

メディア関係者

環境ジャーナリストの会

SDGメディア・コンパクト
(1.5℃の約束 参加メディア)

主体的に気候変動を
取り扱うメディア関係者

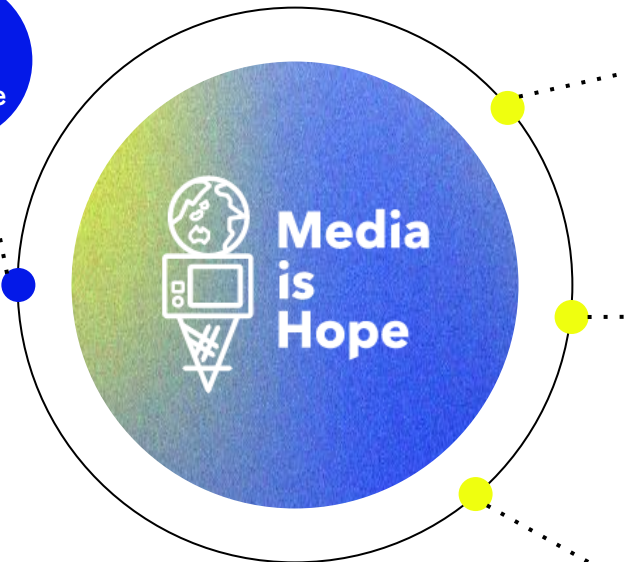
メディア研究機関

次世代メディア研究所

国際メディア研究機関

ファクトチェック組織

climate
media
initiative



※MIHが全てを繋ぐ役割を果たす

気候変動における 科学者イニシアチブ

科学者・専門家・有識者

市民社会ネットワーク

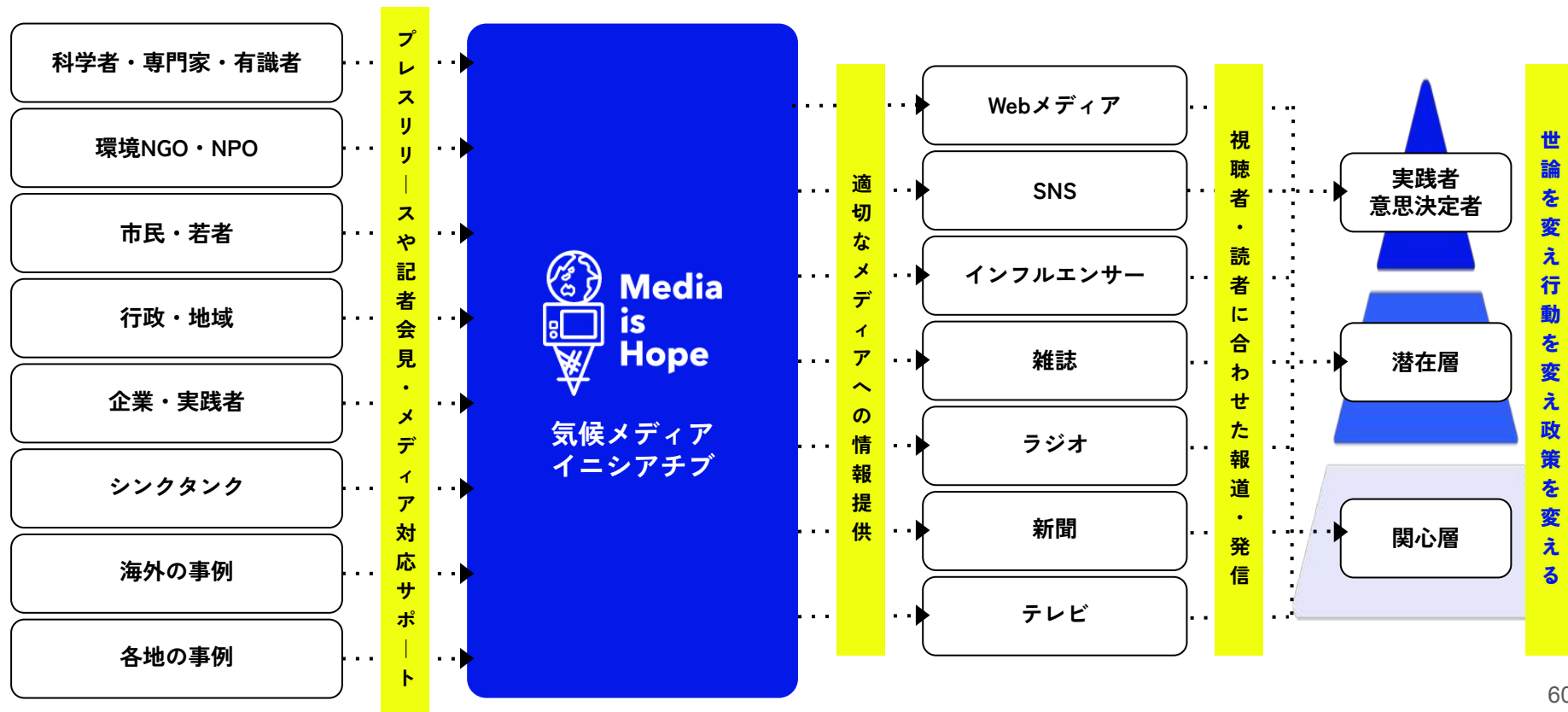
環境NGO・NPO
市民団体・若者団体

メディアに出演する側の ゆるやかな連携

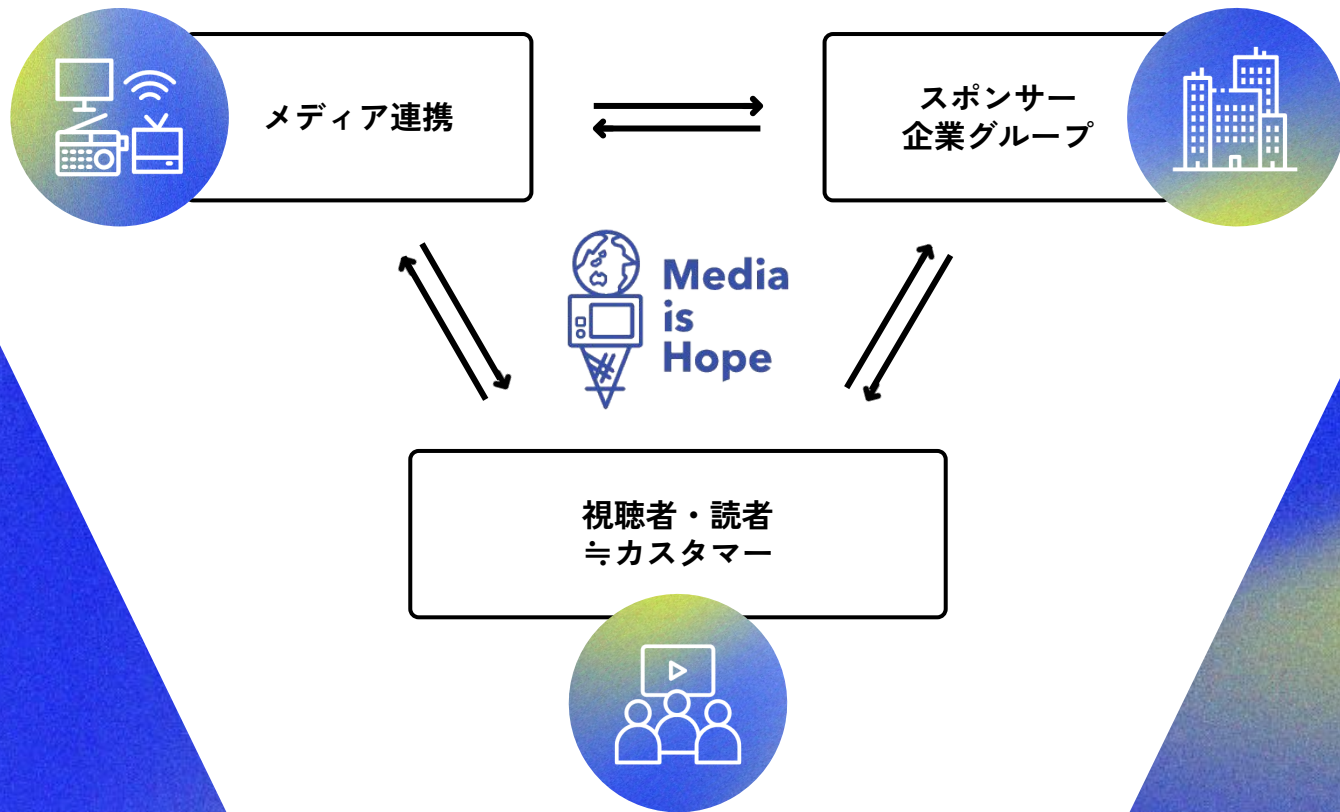
気候変動について自分の言葉
で語れる人（気候変動対策の
実践者、インフルエンサーや
タレントなどメディアに露出
する側）

Media is Hopeが気候変動に携わる全ての活動を後押しする

Media is Hopeがハブとなり各団体、各メディアが役割分担を認識しそれぞれの文脈でより効果的に活動/発信していく。



より良い社会を築きたいみんなが つながるためのプラットフォーム



Corporate

企業連携



JCLP加盟企業数250社以上
総売上高約156兆円



JCI加盟企業数600社以上
800団体以上

Corporate

企業連携

気候変動イニシアティブ(JCI) メンバー団体コラボイベント

「気候変動時代のコミュニケーションについて」企業×メディアの交流会
を定期的実施しています。

新たなプランの提案や新しい仕組みの実装などに取り組んでいます。

企業



21 社 **34** 名

メディア



11 社 **21** 名

合計 **50** 名以上

気候変動を本気で解決したい同じ想いを持った企業とメディアが一堂に会する機会を創出

- ・気候変動解決にコミットする企業への優遇制度
- ・企業側からの気候変動報道を求める声の可視化
- ・企業&メディアが互いにメリットある共創の仕組みづくり ect.

再エネ特番2年連続放送！



2023年9月24日（日）

13：55～15：20

テレビ朝日系列全国ネット



再エネ導入拡大に挑む
ビジネスパーソンの活躍にスポット！

疲弊していた地域が元気に！新たな成長への挑戦！など、
前向きで元気の出るメッセージを放送。

テレビ朝日山口豊アナウンサーの再エネ取材をぜひ特番で
放送してほしい！と提案し、番組が実現しました。



「みんなで作ろう！ 再エネの日！2023」



👍 Media is Hopeならではの取り組み

実現を後押ししたテレビ朝日系列特番
「再エネ革命! ニッポンの挑戦」を
パブリックビューイング

「みんなでつくろう！ 再エネの日！2023」

イベント内容

- ペロブスカイト太陽電池開発者宮坂力先生による講義
- 再エネいろいろ教えてトークショー（基礎編）
- 再エネいろいろ教えてトークショー（未来提言編）
- 気候変動に取り組むメディア紹介
- テレビ朝日系列特番「再エネ革命! ニッポンの挑戦」パブリックビューイング
- 全国の再エネアクターとオンライン中継
- Media is Hope AWARD 2023年上半期の発表・表彰（個人賞と媒体賞をそれぞれ発表）
- ブース出展・飲食



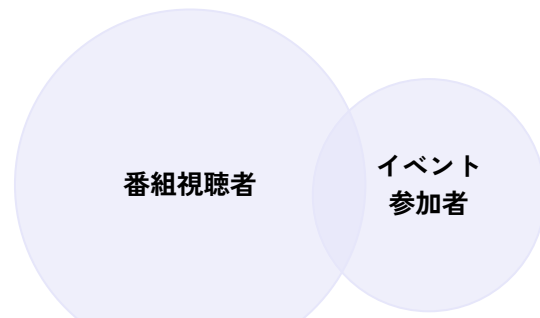
再生可能エネルギーの普及に尽力する様々なメンバーが渋谷に結集し、一般の方々が再生エネルギーを学ぶことができ、身近に楽しめるイベントを開催しました！また本イベント開催を記念し、9月24日を「みんなでつくろう再エネの日」として日本記念日協会にて認定、登録。 *テレビ朝日系（ANN NEWS）

【9月24日は再エネの日】再エネ普及のためのお祭りのイベント

イベント参加する組織、個人、各メディアからリーチする新たな視聴者を巻き込む



※Media is Hopeで繋がりのある組織や個人、メディア（テレビ/雑誌/新聞/オンライン）と連携



番組視聴者や当日のイベント参加者がSNS発信することで盛り上がりを可視化



さらなる視聴者を呼び込む

イベント化して参加者や来場者と盛り上げ話題を呼ぶことで、家にいる視聴者も呼び込み、結果として最大限多くの関心を持ってもらう → イベントが盛り上がり、視聴者が増えることで気候変動番組が単発ではなく継続的に！！

①9月24日は「再エネの日」 渋谷で関連イベント（テレビ朝日系（ANN）TV/web）

③「ドデスカ！」島津咲苗アナのSDGs活動が評価「Media is Hope AWARD 2023」を受賞（メ〜テレ公式YouTube）

⑤サステナブルレポート／「再エネの日」イベント（日刊工業新聞 紙面/web）

⑦SDGsスペシャル『再エネ革命！ニッポンの挑戦』放送！イベントレポート（テレビ朝日ホールディングス SUSTAINABILITY site）

⑨武器は再エネ テレ朝・山口豊アナが見た、追い込まれた地方の逆転劇（朝日新聞 紙面/web）

②「冒頭～3分:山口アナからイベント報告」【解説】日本で“ノーベル賞級”の発明 ペロブスカイト太陽電池とは（AbemaTV）

④メ〜テレ『ドデスカ！』ニュースMC 島津咲苗アナウンサー、「私にできるSDGs」が評価され「Media is Hope AWARD 2023」を受賞！（PR TIMES）

⑥「ペロブスカイト太陽電池」発明者も登壇、「再エネの日」イベントで普及呼びかけ（ニュースイッチ）

⑧「みんなでつくろう！再エネの日！」イベント開催 再エネ普及に尽力するメンバーが渋谷に集結（ELEMENIST）

⑩つながる絵本～for SDGs～ Media is Hope「未来につなげるパートナー」（BS朝日 TV/web）



※パブリックビューイングにて放送したテレビ朝日山口豊さんの再エネ特番「SDGsスペシャル 再エネ革命！ニッポンの挑戦」はTVerで視聴できます。➔



「みんなでつくろう！ 再エネの日！」

山口さんの番組を
パブリックビューイング！



気候変動問題やサステナビリティ分野の認知拡大から、解決に向けての前向きな気運や動機をつくること、実際にアクションを起こすことまで、一気通貫で体験できるイベントです。気候変動やサステナビリティに尽力する様々なオピニオンリーダーが集結し、共創の起点となる第2弾イベントとして開催しました。

イベント開催報告

環境省後援



👉 今年は12のセッション！！

イベント開催報告

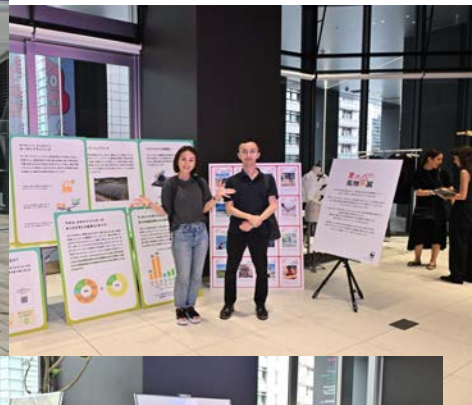
環境省後援



👉 今年は12のセッション！！



👍 登壇者は40名！！



👉 出展は13ブース！！



@MediaisHope1



Xでは主に既存メディアの記事やコンテンツ、番組情報をシェア・拡散して気候変動報道を蓄積しています。

Instagram



@mediaishope



インスタグラムでは主に活動の紹介やテレビ番組の紹介を行い、番組の感想などを収集しています。

記事を読んだりシェアしたりすることが気候変動報道を応援することにつながることを視聴者・読者の皆さんに発信しています。気候変動報道を行うことがメディアと市民のエンゲージメントの向上に繋げることを目的にしています。

最後に

私たちMedia is Hopeは、メディアと視聴者(生活者)、企業、そして、専門家や科学者など気候変動問題を解決しようとするあらゆるステークホルダー同士を繋ぎ、気候変動を解決する社会構築の起点をつくります。

メディアと協働し、メディアをサポートする団体として、気候変動における様々なステークホルダーの橋渡し役を担い、繋がりあうプラットフォームを構築していきます。気候変動問題を解決するためには、一人ひとりがよりよい社会を目指し、未来に何を残せるのかについて、当たり前を考え、実践できるような継続的な仕組みや社会システムが必要です。

そして、そのような持続可能な社会を実現するために、より多くの人、組織、ステークホルダーを、巻き込んでいくことができるメディアの役割は大きい。気候変動問題を解決しながら、いかに社会をより良くしていくかの挑戦をメディアや市民、企業、専門家などあらゆるステークホルダーと一緒に進めていきたい。

“メディアとつくる私たちの未来” Media is Hope

Contact

連絡先

HP



<http://media-is-hope.org>



Instagram



@mediaishope



Contact



<https://media-is-hope.org/contact/>

X



x.com/MediaisHope1